

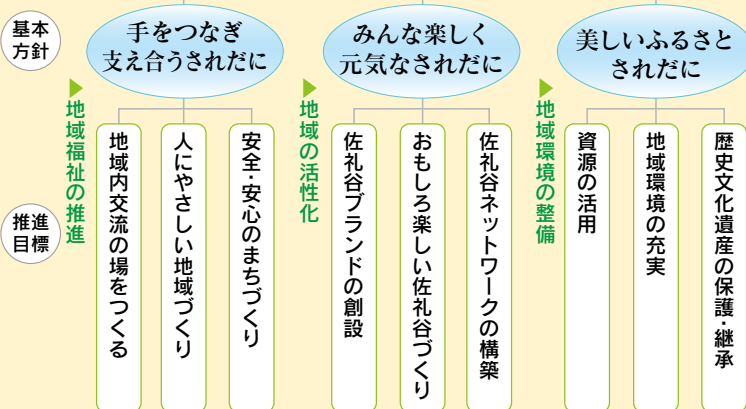
伊予市地域おこし協力隊 (住民自治されだに)の取り組み

動機 — 生き残りにかける
情熱に魅せられて

日本は少子高齢化社会を迎え、人口は約1億2,800万人をピークに減少期に入っており、今後50年間で約4,000万人減少するとの予測も発表されています。単純計算では2年毎に愛媛県規模の地域が消滅していくこととなります。この人口減少は都市部から離れた地方ほど顕著であり、それに加え、農林業の衰退が中山間地の過疎化に拍車をかけています。私が地域おこし協力隊員として活動する佐礼谷地域(伊予市中山町)にも、少子高齢・過疎化の波が押し寄せています。1960年(昭和35年)には16の小集落に1,934人が住んでいたとの記録がありますが、現在は15集落、約700人となりました。高齢化率(65歳以上の人口比率)も、あと数年で限界集落と呼ばれる50%に届

佐礼谷まちづくり計画 概念図

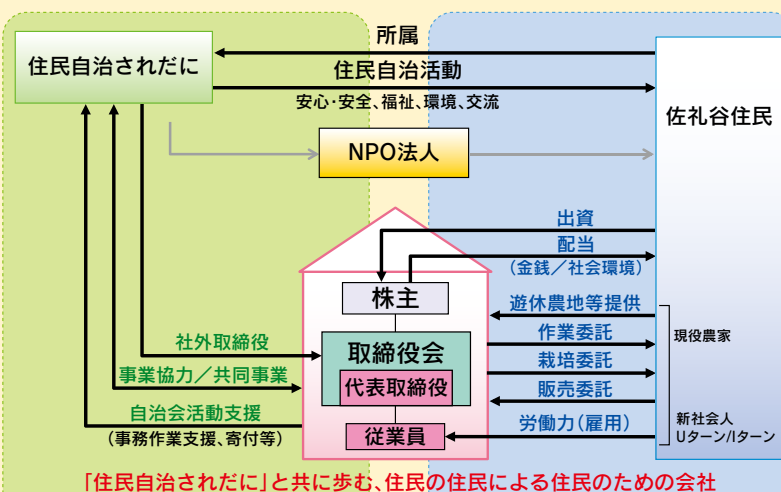
地域の将来像 “笑顔と情熱”新しい風吹く里 されだに



実践活動 それぞれの推進目標に沿った具体的な実施活動を短期、中期、長期の3段階で設定する

新法人の位置づけ

地域活性化を使命とした“ソーシャル・ビジネス(社会的企業)”



「住民自治されだに」と共に歩む、住民の住民による住民のための会社



伊予市地域おこし協力隊
竹内 肇

きそうな勢いです。

今はまだ健在の小学校も、1958年(昭和33年)には児童数408名を誇りましたが、現在は20名を割り込み、存続問題も浮上しそうな状態です。かつては地域内に中学校もありましたが15年前に閉校しています。

佐礼谷住民は、こうした状況を憂い、1年以上の歳月と幾度も会議を経て、2008年、地域存続をかけた持続可能な地域づくりを目的とする住民自治組織を立ち上げました。そして、『笑顔と情熱』新しい風吹く里 されだに』をキャッチフレーズに、『地域福祉の推進』『地域の活性化』『地域環境の整備』の3分野で様々な活動を精力的に展開しています。そして、その活動の一環として地域おこし協力隊員を募集していました。

私は、それらの活動内容をWebサイト上でたまたま見つけ、その情熱と行動力に魅せられ、皆さんの活動のお手伝いができればと思い応募しました。

活動 ― 若者の定住と雇用の場の創出を目指して

今日の急速な少子高齢化と人口減少の状況を冷静に眺めれば、多くの中山間地の集落が消滅するであろうことは容易に想像できます。こうした危機感に煽られ、地域の活性化を目指す活動が各地で展開されているわけですが、中には、本来の目的がおざなりにされ、事業実施そのものが目的化さ

れていたたり、「出来る事から…」などと言って目的との関連が希薄な活動も少なからずあるように思います。そもそも、『地域活性化』を唱えるも、何をもって地域が活性化しと判断するかも曖昧であることも多いように感じます。

佐礼谷では、過疎化阻止の活動の一つとして、『若者が佐礼谷に住まいを構え、子供を産み育てている姿』の実現を目的として、その若者を雇用できる会社の設立を目指すことにしました。生活基盤となる働く場のないことが過疎化の大きな要因であると考えられるからです。

私は、自らの会社やNPO法人の設立、そして、仕事としての起業支援や中小企業の経営支援などの経験を活かして、マネジメントの観点から新たな会社の設立をお手伝いしています。

会社を設立すること自体は難しくはありませんが、事業を維持継続させることは容易ではありません。新たに設立される会社は10年以内に2/3が潰れるとのデータもあります。

そのため、有志の皆さんと一緒に、この一年、20回以上もの会議の中で議論を重ね、目的達成への道筋を示す慎重な事業計画を作り上げました。

今後 ― 成功の鍵は情熱

事業計画はほぼ完成し、いよいよ、計画の実行段階を迎えようとしています。

事業計画書には、いつ、どのような方法

でどんな目標に到達するのかが示されています。しかし、計画の実現には、幾多の難関を乗り越えなければなりません。まずは、心の準備と計画をスタートさせる決断、そして何よりも計画の実現にかける情熱が不可欠です。この情熱は、地域に向ける想いの強さでもあると思います。

どんなに熱い想いを語っても、また、どんなに勉強を重ねても行動が伴わなければ無意味ですし、どんなに頑張った計画も、実行が伴わなければ露ほどの価値もありません。

現在、佐礼谷の地域存続にかける情熱は客観的に見ても非常に高い状態にあります。が、この点をピークとせず、更なる高い目標を目指す強い情熱を感じます。

私の地域おこし協力隊員として活動は、ようやくウォーミングアップを終えた段階であり、いよいよ、本格的な活動が始まるうと思っています。

山の斜面に広がる段々畑の石積みなど見ていると、先人の開拓精神に感動さえ覚えます。夢と希望を抱いて、この厳しい山あいに道を作り、田畑を開墾し、大量の石を運び積み重ねるなど、多くの苦難や障害を一つ一つ乗り越えて集落を作り上げてきたに違いありません。出来ない理由探しで先人が築いた土俵に留まるのではなく、出来る方法を真剣に議論して見出し、その障害を克服していくことで、先人の道の延長となる新たな未来が開けるはず。今、先人に負けない信念と情熱が求められているように思います。